



その息切れは年齢のせい？呼吸器内科



循環器内科

診療科トピックス①

息切れをおこす病気を診断・治療する中で、「息切れは年齢のせいだと思っていた。」とおっしゃる患者さまが非常に多くいらっしゃいます。

しかし、息切れの原因を調べ、適切な診療科で治療を受けることで改善する息切れもあります。



循環器内科
高橋政夫部長

呼吸器内科
田中健介医長

「息切れ」とは

「息切れ」とは、呼吸をするのに努力を必要としたり、不快感を自覚したりすることとされています。しかし、一口に「息切れ」といっても、「息がつまる」、「胸が圧迫される」、「呼吸が浅い」などさまざまな感じ方があり、その原因も、肺の病気だけでなく、心臓の病気や血液の病気、神経や筋肉の病気など多岐にわたります。

息切れを呈する主な疾患

- **呼吸器疾患** 気管支喘息、COPD（慢性閉塞性肺疾患）、肺塞栓症
- **循環器疾患** 心不全、弁膜症、狭心症、心筋梗塞、不整脈
- **その他** 貧血、甲状腺機能異常、神経筋疾患、心身症、薬の影響

「息切れ外来」を開設しました

息切れは多くの場合、肺または心臓の病気が原因で起こります。そのため当院では、呼吸器内科と循環器内科で協力体制を作り、2023年6月から「息切れ外来」を開設しました。

呼吸器内科医師が初診を担当し、各種検査（採血・胸部レントゲン・心電図）をもとに、両科の医師で協議し、呼吸器疾患、循環器疾患、その他の疾患かどうかを調べます。さらに、疑われる疾患の担当科でのCT、心エコー、呼吸機能検査などの精密検査により原因を明らかにし、息切れの改善を目指していきます。

受診の目安はありますか？

このような症状があるときは受診を検討してください。

- 安静時、動作をした時の息切れ
- 胸の不快感、動悸、締め付けられる感じ
- 息を吸ったり吐いたりすることに困難、ゼイゼイの自覚

受診の際にお聞きすること

- 息切れがいつ始まったか
(急に始まったか徐々に始まったか)
- どれぐらいの間、息切れを感じているか
- 息切れを誘発したり、悪化させる原因があるか(寒冷、運動、アレルゲンへの曝露など)
- 息切れの他に、胸痛や手足のむくみ、咳などの症状があるか

息切れ外来受診をご希望の方は・・・

- **診療日時**
毎週金曜日 11時00分、11時30分

- **予約方法**

☎03-3320-2211(予約センター) 「息切れ外来」受診希望の旨をお伝えください。
(電話受付時間 当院診療日 9:00~16:30)



いま知りたい！ —帯状疱疹—

帯状疱疹は多くの方が子供の時に感染した水ぼうそうのウイルスが原因で起こります。水ぼうそうが治った後も、ウイルスは体内に潜伏していて、過労やストレスなどで免疫力が低下すると、ウイルスが再活性化して、発症します。



皮膚科 大野祐樹 医師

どんな症状がでるのでしょうか。

頭部（顔面）、体の左右どちらかの神経に沿って、痛みを伴う赤い斑点と水ぶくれが多数集まって帯状に生じます。通常、**皮膚症状に先行して痛みが生じます**。多くの場合、皮膚症状が治ると痛みも消えますが、神経の損傷によってその後も痛みが続くことがあり、これは帯状疱疹後神経痛と呼ばれ、頻度の高い合併症です。

早期治療開始が大切です。

原因となっているウイルスの増殖を抑える抗ウイルス薬と、痛みに対する痛み止めの内服が中心となります。抗ウイルス薬は早く服用を開始するほど効果が高いため、なるべく早く治療を始めることが大切です。

症状が重い場合や免疫力が低下している場合は、抗ウイルス薬の点滴による入院治療が必要になることがあります。

うつる？ うつらない？

帯状疱疹は潜伏しているウイルスが原因ですので、他の人から帯状疱疹としてうつることはありません。ただし、水ぼうそうの抗体を持っていない方は、ウイルスの感染により水ぼうそうを発症することがあります。また、一度帯状疱疹になっても、体の免疫力が低下すると再び発症する可能性があり、予防が大切です。

予防にはワクチン接種が有効

ワクチンは発症を完全に防げるものではありませんが、発症率を下げたり発症しても症状が軽く済むなどの効果が期待できます。発症率が上がる50歳以上の方にワクチン接種が推奨されています。

帯状疱疹ワクチンには、不活化ワクチンと生ワクチンがあり、接種回数や費用、予防効果に違いがあります。

当院では、どちらのワクチンも接種が可能です。また、渋谷区の費用助成による接種も可能です。接種をご希望の方は皮膚科にご相談ください。



JR東京総合病院皮膚科からのお知らせ

現在、当院において皮下腫瘍に対する体表エコー検査は行っておりません。ご理解いただきますようお願い申し上げます。

臨床検査科

コロナ禍のPCR検査を振り返って

新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから3年が経過しました。臨床検査科では2020年4月からいち早く新型コロナウイルスPCR検査を導入し、即日報告に努めてまいりました。PCR検査は適正な知識を基に、手技に習熟した臨床検査技師が防護服を着用し慎重に作業を進めますが、ひとりぼっちで行うため集中力が必要です。1日の検査数が150件を超える日もありました。これまでに47,800件の検査を実施しています。

現在は、オミクロン株とは大きく異なる変異株が出現するなど、まだ油断できません。換気を徹底する、密を避けるなど、日常生活の中で引き続き注意が必要です。

